

千數百年ノ間吾國ニ行ハレタル習慣ノ力ヲニヨリテ存スルノミコ
 テ聊カ識見アル人ニ於テハコレニ心淫スルモノハ殆ンド無シト云
 フモ誣事ナラサルノ時ニ至レリ如此モノハ他無シ造化ノ氣運將ニ
 第七期ノ陽數ニ歸シタル今日ナルガ故ニ大陰教ハ其蹟ヲ收ムヘキ
 ノ時至リタルナリ耶教ト雖也又々如此モノニテ立教以來二千年ノ
 間ニ於テ其最モ教權ノ盛ソナリシハ凡大世期第六期ノ中期陰勢ノ
 盛ナル極則チ彼ガ所謂小世記ノ十世記前後最モ盛ソナルモノニテ
 既ニ西曆一千余年ノ頃ニハ教權ト共ニ法王ノ權最モ盛ナルガ爲ニ
 日耳曼帝ノ權力ヲ以テコレヲ壓スルヲ能ハズ終ニ其帝權ハ大陰教
 ノ爲ニ壓セテ哀ヲ法王ニ乞フニ至リ大國ノ帝タル身ヲ以テ嚴寒
 一毛衣ヲ着ケ法王ノ城外ニ立ツテ三日ニテ免テ得ル等ノコトアル
 ニ至ル其後教權ノ政權ヲ壓スル弊終ニ十字軍ノ大不幸ヲ見ルニ至
 リシナリ然レ共造化氣運ノ然ラシムル所ト如何トモ成スベカラズ
 是ヲ以テコレヲ見レバ耶教ノ極盛時モ千年以前ノコトニシテ如此勢
 力アリシ耶教モ其後漸々其勢力ヲ減シ方今ニ至リテハ只二千年間
 ノ習慣コレヲ維持スル迄ノコトニテ聊カ識見アルモノハ洋人ト雖也

コレニ心淫スルモノ無キノミナラズ終ニトウマスペインノ如キ洋
 人ニシテコレヲ癡セントスルノ論者アルニ至ル以テ耶教ノ將來ヲ
 察スルニ足ルベシ然ルニ今日ハ是レ既ニ造化ノ大氣運ハ第七期ノ
 陽數ニ復セリ宜シク將來ニ行ハルベキ教法ヲ撰ムベキノ時運ナリ
 然レバ何等ノ教法ヲ撰ビ採ルベキヤト云ハ、開闢第七期ノ陽數ナ
 ルト共ニ大陽教ナラサレバ造化ノ氣運ニ相合セザルハ造化自然ノ
 定數ナレバ何物カ大陽教ナラント考フルニ吾神道コソ大陽日球中
 ヨリ起リタルモノニテ皇天二祖ト坐ス高皇產靈大神天照大御神ノ
 神勅ニ出タル天造ノ大陽教ニテ幽ニ偏セズ顯ニ偏セズ幽顯兼備ノ
 神教ナルコトハ今更喋々ノ論ヲ俟テ知ルベキニ非サルベシ然レバ其
 天造ノ陽教タル神道ニシテ今日ニ未タ萬國ニ盛ソニ行ハレサル所
 以ノモノハ如何トナレバ前々ニ申シタル通り數年ノ前途ハ造化氣
 運第六期ノ大陰數ナリシヲ以テ大陽教タル神道ハ今日迄ハ陰氣ノ
 爲メニ壓セテ大陽國タル吾日本ニシテ潛ミテアリシモノナルヲ
 將ニ造化ノ氣運第七期ノ陽數ニ復リタル時ナレバ吾神道ノ漸々世
 ニ行ハレントスル期ノ已ニ至レルヲ知ルベキモノニテ世ノ神道ヲ

擴張セント欲スルモノハ眼ヲ宇内ニ放チ造化氣運變遷ノ大局ヲ洞
 觀シ陰教ト陽教ノ今將ニ交代セントスルノ時ナルヲ明コスベシ
 然ルニ尙今日ニシテ大陰教ヲ挽回セントスルガ如キハ造化ノ氣運
 ニ背クモノニシテ消ント欲スル燈火ノ再ビ光リテ増ノ類ト云フベ
 シ然ルモ尙方今其宗教信徒ノ多キヲ以テ兩宗教ヲ盡シナルモノト
 見ルガ如キハタトヘバ冬季ト春季ト交代シタル後ト雖也尙冬季ノ
 寒キヲ感スルト一般ニシテ造化ノ大氣運ハ已ニ陽數ニ復リタルモ
 未タ春暖花ヲ開クノ期至ラサルヲ知ラサルナリ造化自然ノ氣交代
 シタル以上ハ必ス陽氣陰ヲ壓スルノ日至ルハ動クベカラザルノ定
 數ナルベシ既ニ方今ノ世運ハ彼ノ佛耶兩教ヲ始メテ各國ニ流布シ
 タル時ニ比スレバ航海ノ便宜キヲ得タルノミナラズ萬國トモ日一
 日ヨリ文明ノ陽氣盛ニナラントスルノ時運ナレバ此造化陽數ニ復
 リタル氣運ニ乘シテ吾天造大陽教タル神道ヲ萬國ニ廣布シ大陰教
 ト交代セシムヘシタトヒ人爲如何ニ大陰教ヲ維持セント欲スルモ
 造化神機ノ動ク所何物カコレニ敵スルヲ得ン然レ共他ノ大陰教ト
 雖也亦ク世ニ行ハレタルハ全ク人爲然ラシムルニ非ズ造化自然ノ

氣運コレヲ許ス所ナレバタトヒ其教旨ハ陰々タルモノニモセヨ勸
 善懲惡人ヲシテ善道ニ導カント動ムルハ仁愛ニ出ル所ナレバ必ズ
 コレヲ敵視スルヲ無ク只陰教ト陽教ト交代セシムベキノミ吾天造
 ノ大陽教行ハル、ニ至レバ大陰教ハ自ラ其蹟ヲ収ムヘキハ又今日
 リ將來ニ至ル造化自然ノ定數ナリ如此理由アルガ故ニ御質問ノ義
 ハタトヒ神祇官ノ再興アリテ國家的祭政一致ノ神道行ハル、ノ好
 機至ルト雖也ソハ吾國體ノ精華トシテ吾國ニ行フベキモノナレバ
 コレヲ神道ノ体ト定メ別ニ外邦ニ向テ吾神道ヲ廣布スベキ自由信
 仰的ノ神道無カルベカラズ故ニ余ハ第二期ノ卷末ニ於テ聊カ意見
 ナ述置タル通り國家的神道ノ外ニ必ズ自由信仰的ノ神道ヲ起シ斯
 道擴張活用ノ方法無カルベカラズトスルモノナリ如此論スル時ハ
 アマリ遠大ニ失スルガ如クナレ共斯道ハ天地ノ造化ト相伴ヒ來リ
 タル大道ナレバ自ラ其論スル所モ又遠大ナルハ勢ヒ止ムベカラサ
 ルニ出ルモノニテ既ニ余ガ本傳講述ノ精神タル國家的ヨリコレヲ
 見レバ則チ國家的ナルヘク學理的ヨリコレヲ見レバ又學理的ナル
 ヘク宗教的ヨリコレヲ見レバ又宗教的ナルヘシ是吾神典中政事道

學物理等悉クコレヲ含蓋スル造化自然ノ神傳ナルガ故ナリ聊カ意見ヲ記シテ御質問ニ答ヘ合セテ大方ノ君子ニ質ス

○或人又曰ク前質問ノ義ハ御辨明ニヨリ大ニ發明スル所アリ實ニ此御說遠大ニ過ルガ如キ感無キニ非ザレドモ道教ナルモノハ千歳ヲ期スルモノナレバ目今ノ如何ニカ、ハラズ遠ク千歳ノ後ヲ策ラサルヘカヲサルモノト存スレハ御說ニ隨ヒ尙研究致スヘキト存ズルナリサテ又前論トハ聊カ其趣意ノ異ナルモノナレ共方今世人ノ喋々スル所ノ諸神社祭神ノ義ニ付御意見ノアル所ヲ伺ヒ置クシツハ如何トナレハ凡吾皇國ニ於テ奉祭尊信スル所ノ神社官國幣社ヲ始メ府縣鄉村社攝社末社ニ至迄其數牧擧ニ違アラズ且其祭神ニ於テモ天津神國津神ヲ始メテ或ハ人皇以後國家有功ノ人靈等ニ至ル迄實ニ多神ナリト云フヘシ而シテ其祭リノ等位ニ於テモ天津神ニシテ村社以下攝末社ニ奉祭スルアリ或ハ又人靈ニシテ官幣社ニ列スルアリテ其祭祀ノ精神ニ於テモ國家的ヨリ祭ルモノアリ信仰的ヨリ祭ル等アリテ其規律定マラサルモノ、如キハ聊カ惑フ所アリ故ニ參考ノ爲御説明ヲ仰ク

○答フ御質問ノ通り各神社ノ中ニハ天津神ニシテ攝末社アリ人靈ニシテ官社等モアリテ一通リ考フル時ハ順序ヲ失フタルモノ、如クナレ共更ニ神位神徳ノ高下ニ關係アルニ非ズ其祭事ニ大小ノ等アルモノニテ其神位神徳ニ於テハ攝末社ト雖モ天津神ハ天神ノ神位ニ坐シ官社ト雖モ人靈ハ人靈ノ神位ニ坐スハ申ス迄モ無ク攝末社ナルモノハ本社ニ對スル臣位ノ如キモノニハ非サルナリ只天神地祇人靈何レニモアレ官祭本社ノ外ニコレヲ祭リタルモノハ多クハ其御分靈ヲ祭レルモノナリ故ニ天神地祇共ニ御高德ノ神ハ皆其御本祭ノ御本社アリテ天照大御神ニハ伊勢神宮アリ大國主大神ニハ出雲大社アルガ如シ其他ニ同シ大神等ヲ祭ル社ハ皆御分靈奉祭ノ神社タルモノナレバ更ニ大小ノ論無キナレバ又人靈ニシテ官社云々ニ至テハ方今世論ノ喋々スル所ナレ共國家有功ノ靈ヲ祭ルハ吾國神世ノ遺風ニシテ天神地祇ヲ祭ルモ同シ精神ナリ天神地祇ハ天地組織ノ有功神ニ坐スガ故ニ國家ハコレヲ祭ルヘキ報本反始ノ義務アルモノニシテ人靈モ又國家維持ノ有功神ナルガ故ニ同シク國家ハコレヲ祭リテ報本反始ノ至誠ヲ表スベキ神社無カルベ

カヲサルナリ吾神世相承ノ神國ニ於テ人靈ヲ神ト祭ルハ勿論ノ
 ニテ神代ノ神ト人皇以後ノ人靈トハ其新古ハアリト雖也神タルニ
 於テ何ノ別カアラソ皆造化大元靈ノ御分靈ナラサルノ靈無シタト
 ヒ神代ノ天神ト雖也天若日子ノ如キハ人皇以後ノ神靈タル護王神
 社湊川神社等ノ祭神ノ前ニ立テ何ノ面目カアル再ビ甦死スルノ外
 無カルベシコレヲ以テ國家有功ノ人靈其徳ノ尊ムヘキヲ知ルベシ
 方今ノ學生等多クハ彼ノ洋人ノ所謂衆神教ハ野蠻ノ國ニ行ハル、
 教法一神教ハ文明ノ國ニ行ハル、教法ト云フガ如キ説ニ惑ヒ彼カ
 所謂衆神タルモノハ如何ナルモノト云フヲモ辨ヘズ吾神道ノ衆
 神ヲ論セントスルハ洋醉モ亦甚シキト云テ彼ガ所謂衆神ナルモノ
 ハ申サバ昔日蠻民共ガ獸骨ノ類ナドヲ祭リタルヲ云フモノニテ更
 ニ國家有功ノ靈ヲ祭リタルモノニ非ズコレニ反シテ吾衆神ナルモ
 ノハ國家ニ大關係アル造化分擔ノ神祇ヲ始メ國家有功ノ靈ヲ祭ル
 モノニテ報本反始ノ至誠ニ出ル所其祭リノ精神ニ於テ彼カ衆神ト
 云フモノト天壤ノ相違アルモノナリ國家有功ノ神ヲ祭ルハ國人ノ
 義務ニシテ神國ノ正道ナリ故ニ諸神社ハ國家的ノ精神ヨリ祭ルメ

キモノナレ共又敬神ノ至誠ヲ表スル神社ナルヲ以テ自ラ信仰的ノ
 精神モコレニ加ハルハ勿論ノナリ既ニ余ハ電氣蒸氣等ノ發明有
 功者ハダトヒ外邦人ト雖也其靈ヲ祭リテ其功ニ報ユルノ道ヲ開カ
 ノト欲シ外邦ニ先立テ先ツ其禮ヲ吾ヨリ行ヒコレヲ萬國ニ學ハシ
 メント企望シツ、アルモノナリ聊カ意見ヲ吐露シテ御質問ニ答フ
 ○或人又問フ御辨明ニヨリテ神代ノ神ト人皇以後ノ人靈ヲ祭ル云
 ヲ了解スル所アリ就テハ今一疑御説明ヲ乞ヒ置クハ如何トナ
 レバ方今各神社ナルモノハ其土地ニ在住スル人ニ於テコレヲ産土
 神ト唱ヘ氏神ト唱フルモノナルニ或ハ祭神ノ不分明ナルモノアリ
 又諸神社祭神取調ノ際始メテ何ノ神ナリト神官氏子等ノ協議ニヨ
 リテ定メタルノ類モ少カラズ如此ノ類ハ全ク國家的ノ精神ヨリ祭
 リタルモノニ非ズ申サバ信仰的ノ精神ニ出ルモノニテ方今ノ諸神
 社祭神等ノ一甚不規律ノモノナルハ神祭ノ大典ニ於テ大ニ惑フ所
 アリ故ニコレガ御説明ヲ仰ク
 ○答フ御質問了承セリ御意見ノ通り方今産土神氏神等語神社ノ祭
 神ニ於テハ近世ニ至リテ其祭神ヲ定メタルモノモ間々有之是等ハ

國家的ニ祭ルベキモノカ信仰的ニ祭ルベキモノカトノ疑点ハ必ズ免レサル所ニシテ又産土神ト云ヒ氏神ト唱フルハ如何ナル理由ナリヤト云フニ至テモ願然タラサルモノナレ共何レモ神代ノ遺風ニ基クモノニテ先ツ産土神氏神ト云フ名稱ハ何レノ時代ヨリ唱ヘ始メタルトカト考フルニ是モ儘カナル傳書モ見當ラテ共上古ノ時代ニハ此名稱ハ共ニ無キトニテ中古以來ノ名稱ノ如ク思ハル、トナルガ何等ノ理由ヨリ如此名付ケタルモノカト云ハハ先ツ産土神ト云フハ始メテ其土地ヲ開クノ時ニ當リ其土地守護ノ爲ニ祭リ始メタルヨリコレヲ産土神ト唱ヘ始メタルトスレバ粗其當チ得タルモノト存ズ然レバ何レノ神ヲ祭リタリト云フニ至リテハ今日舊記ヲ失ヒタルモノハ知ルベキ限リニ非ズ又氏神ト唱フルハ上古ノ時代ヨリ其地ニ住スル人ノ姓氏ニ付テ其祖先ノ神ヲ祭リ來リタルヨリ起リタル名稱ナルトハ疑ヒ無キトニテタトヘハ中臣家ノ人々ハ天兒屋根命ヲ祭リタコレヲ氏神ト唱ヘ齋部家ノ人々ハ太玉命ヲ祭リタコレヲ氏神ト唱フルノ類ニテ後ニハ其人々ノミナラズ他姓ノ人モ其地ニ來リテ住スルトナリ後世ニテハ諸神ノ子孫ガ雜居ス

ルトナリシモ一旦其地ニ祭リ來リタル神ハ何氏ノ祖タル神ニモセヨ其地ニ永ク奉祭シ來リタル神ニテ自ラ其土地ノ守護神トナリシモノナレバ他姓ノモノハコレヲモ其土地ノ神トシテ尊信スルヨリ自ラ産土神ト唱フルトニ至リタルモ知ルベカラズ然ルニ諸社祭神不分明ノ社多キハ舊記等ヲ失フタルニヨルモノニテ即今何神ト知ルベキ由無キトナレ共只舊式ニ隨ヒ奉祭スレバ神ハ幽中ニ坐シテ其饗ヲ受ケ玉フトナレバ後世ニ至リ新タニ祭神ヲ定ムル等ハ好マシカラザルトナレ共一旦何神ナリト神号ヲ定メテコレヲ祭ルノ禮ヲ始ムレバ其唱フル所ノ神モ又來感アルベキトナレバ是等ノ類ハ古來ヨリ祭リ來リノ神ノ外更ニ神靈ヲ加フル譯ニテ從來ノ神ト共ニ幽中ノ神政ニ關リ玉フ理リナレバ當時ノ神社タルモノハ多クハ産土神氏神ノ外ニ更ニ鎮守ノ神ヲ加ヘ一社數神ノ社ニテ其名稱モ産土神氏神鎮守神ノ三唱ヲ相兼タルモノナリ最モ式内神社ニシテ大座ノ分等ハ素ヨリ一姓ノ氏神トシテ祭リタルモノニ非ズ國家的ノ精神ヨリ祭リ來リタルモノニテ國家ノ守護神タルハ式ノ祝詞文ニテモ明ナルトナレハ是等ハ永遠國家的ノ精神ニテ國家ヨリコ

レテ祭ルベキハ勿論人皇以後ノ人靈ト雖ニ國家有功ノ靈ハ又國家的ノ精神ヲ以テ國家ヨリコレヲ祭ルベキハ吾神國ノ正道ナリ且郷村社等ニ至テハ信仰的ノ精神ヨリ祭レルモノ多クレバコレヲ信仰的ヨリ祭ルモ又自然ノ然ラシムル所ナルベシ如此理由ナルガ故ニ方今ノ諸神社ハ其舊記ノ証明スル所ニ隨ヒ國家的ト信仰的ノ兩性質ヲ以テ祭ルベキモノト考ヘタル、ナリ然レ共タトヒ信仰的ニ祭ルベキ神社ト雖ニ神祇官再興アルニ至レバコレヲ統轄スルハ又神祇官ノ宰ルヘキハ舊式ニ則トル所ナリ如此道理上ヨリ考フル時ハ諸神社祭神分明ナラサルモ産土神氏神鎮守神ノ三唱ヲ混シタルモ頗然タルモノニテ不規律中ニ自ラ規律無キニ非ズ顯幽界ヲ異ニスル後世幽事ニカ、ル神事ハ只道理ノ許ス所ニ隨ヒ開國以來傳ヘ來リタル禮典ニ倣ヒ無窮ニ此大典ヲ傳フルヲ以テ吾國體ノ精華トスヘキナリ

○サテ本卷モ紙數己ニ盡キタレバ未ダ說ノ盡サ、ルハ遺憾トスル所ナレ共前々ノ購逮ニテ粗斯道御研究ノ御參考ニハ成ルヘキト存スレバコレニ筆ヲ止ム

擔當者謹白

本卷印刷ニ付擔當者ヲ補助セラレタル諸氏ノ姓名左ノ如シ

美作國東北條郡上加茂村

内田 饒 穂 君

全 國西北條郡西吉田村

秋 山 結 城 君

全 國西々條郡久田村

牧 野 競 君

全 國東北條郡上加茂村

内 田 龍 平 君

全 國糸北條郡倭文東村

爲 貞 建 雄 君

○本講則今天地組織之原理ハ本卷ヲ以テ既ニ結了
 ナ告クルニ至リ美甘翁ハ素ヨリ擔當者ノ満足ス
 ル所ニシテ讀者諸君ニ於テモ亦御同感ナルベシ
 サテ翁ガ初メテ神明ニ誓ヒ此講述筆記ニ着手セ
 ラレシハ明治二十二年五月十五日ニシテ不肖重
 義ユレガ擔當ノ任ニ當リ專ラ出版ノ速カナラン
 一ヲ計リシモ如何セン種々ノ事故アルガ爲ニ萬
 事意ノ如クナラズ漸ク一昨二十三年十一月ヲ以
 テ始メテ第一卷ヲ出版セシニ各國讀者諸君ヨリ
 二卷以下出版ノ督促陸續トシテタヘズ故ニ二十
 四年三月七月兩回ニ第二第三ノ卷ヲ出版シ次テ
 第四第五ノ卷ヲ出版ノ計畫中不計八月下旬ノ頃
 ヨリ美甘翁ニハ頓ニ病ニ罹ラレ讀書研究等ハ醫
 師ノ止ムル所トナリ無止放學ノ上轉地保養致サ

レタルガ爲ニ四期五期ノ講述出版久シク延期ス
ルニ至リタリ然ルニ第一ノ卷ハ製本既ニ盡キタ
ルヲ以テ本年三月コレヲ再版シ次テ去ル十月第
四期則テ四ノ卷ヲ出版シ尙引續テ本卷則テ第五
期ノ講述ヲ出版シタルヲ以テ全ク神代五大世記
トモ全部終結ニ及ヒタルハ本國有志諸君ノ保護
ト各國讀者諸君ノ賛成ニ由ル所ニシテ國家將來
ノ爲ニ賀スベキハ勿論不肖重義出版擔當ノ任ヲ
全フスルヲ得タルモ又コレガ爲ナレバユ、ニ一
言ヲ呈シテ諸君ノ高意ヲ謝ス

○本講々述原稿ノ義ハ翁ガ自記セラレタルモノニ
シテ不肖重義其原稿ニ隨ヒ第一期ヨリ第五期マ
デ全部トモ謹ンテ清記致シ翁ノ訂正ヲ乞ヒテ印
刷シタルモノナレ共尙見閱落ノ所モ有之且印刷

ノ際誤植ノ文字モ少カラサレバ正誤ヲモ付シ置
クベキノ所未タ正誤取調モ全カラサルニ付他日
附録出版ノ際全部五卷ノ訂正ヲ加ヘ置キ申スベ
シ故ニ一言コレヲ謝ス

○本講々述モ既ニ本卷ヲ以テ神代五大世記トモ終
結ニ及ヒタレバ讀者諸君ハ粗講説ノ如何ヲモ御
了解アリシトナルベシ然ルニ是迄讀者諸君ヨリ
本説ニ感セラレタル旨御賛詞ノ御書簡枚舉ニ遑
アラサル次第ナレ共尙第五期終尾迄御通讀ノ上
ハ更ニ本説ニ對シ可否トモ一言ノ御評詞アラシ
トテ翁ガ切ニ冀望セラル、所ナレバ必ズ御一報
ノ御投書ヲ乞フ

○本講附録出版ノ義ハ聊カ翁ノ意見モ有之暫ク出
版ヲ延期ス

天地組織之原理

明治二十五年十二月二十日 出版擔當者 松岡重義謹白

美甘翁姓名訓ニ方ハ如何ニ訓ムニヤト讀者諸君
ヨリ毎々照會セラル、ニ付ユレガ回答ノ手數ヲ
省ク爲メコ、ニ仮名ヲ付シテ御回答ニ換フ

美^ミ 甘^{カモ} 政^{マサ} 和^{トモ}

天地組織之原理 全部五卷 實價 金貳圓

但一冊賣實價金郵稅共金四拾四錢

明治二十五年十二月廿五日印刷
明治二十五年十二月廿八日出版

正價金五拾錢

著述者兼
發行者

岡山縣士族

美 甘 政 和

美作國東南條郡東一宮村
大字東一宮百三番邸

印刷者

岡山縣平民

松 岡 重 義

美作國東南條郡東一宮村
大字東一宮百一番邸

印刷所

平 岡 活 版 所

美作國西北條郡津山町
大字西今町七番邸

發行所

神典研究會事務所

美作國西北條郡津山町
大字田町百八十六番邸



